

高校・一般の部 優秀賞

石川 朝子

昭和11年 高根の伯母(母の姉)一家は伯父が鉄道技師の為、「満州」に渡りました。然し太平洋戦争が始まると状況が一変して苦難の末日本に帰って来ました。やがて幾千万人もの犠牲の悲惨な戦争が終わりました。あくる年の一月、母の背中には生後四ヶ月の妹、私は小学一年生の冬休み、高根の伯母に会いに朝早く一里の道を駆込歩きました。汽車が拝島に着き、八高線の椅子に座っていた私を復員兵さんが見て、「お嬢ちゃん何処迄行くの、お母さんと一緒にいいね」と言って私の頭を撫でました。そしてリックサクの中の乾パンを紙に包んで下さったのです。私は只恥づかしく母に促され、有り難う、と言うのが精一杯でした。乾パンを大切に母の木口に仕舞い、箱根ヶ崎で復員兵さんに挨拶をして別れました。当時の高根は埼玉県で県境の坂に伯父が、リヤカーを携えて待って居ました。伯母と母は再会を喜び合い、その晩皆で乾パンを頂きました。子供心に復員兵さんの心温もる一期一会は私の戦後史の原点です。戦後73年人々の深い絆が真の平和を築くと信じています。 八月の三つの祈り忘れまじ(朝子)